



©Yuki Asada

農村女性の温かさを感じる布製品

バングラデシュの首都ダッカの名所として知られる国内最大の市場カウランバザール。その一角にある「KARU PALLI」は、1979年に農村開発局がオープンした老舗の雑貨屋だ。

店内に入ると、鮮やかな色の民族衣装やアクセサリー、ジュート（黄麻）で作られた小物などが所狭しと並べられている。中でも、バングラデシュに古くから伝わる“ノクシカタ”のきめ細かい刺繍は、外国人観光客にも人気。生産者である農村部の女性の生計向上を目的に作られたこの店には、開店当初から10年にわたり青年海外協力隊が派遣され、現地の人々と協働で商品開発が進められてきた。

そして2010年から再び、商品開発はもちろん、店舗のディスプレイや在庫管理などを2人の協力隊員が支援している。「“新しい商品売りしたい”という意欲が薄かったスタッフも、生産者と直接顔を合わせて話す機会を作ると、いろいろなアイデアを出すようになりました」と手工芸隊員の西田佳那さん。何度も失敗を繰り返しながらも「日本で売れるくらいクオリティの良いものを作りたい!」とみんな意欲満々。ものづくりの楽しさを実感している。

農村の女性たちが心を込めて作ったアイテムを身に着けると、なぜかとても温かい気持ちになれるから不思議だ。



“売れる商品”を作るために、西田さんはKARU PALLIのスタッフと農村に足を運び、技術指導やデザインの提案などを定期的に行っている

★ハンカチを3人、クッションカバーを2人、テーブルクロスを1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

